

愛知県公立大学法人  
平成27年度業務実績に関する評価結果

平成28年9月

愛知県公立大学法人評価委員会



# 目 次

はじめに	1
<b>I 全体評価</b>	
1 評価結果と判断理由	2
(1) 評価結果	
(2) 判断理由	
ア 項目別評価	
イ 評価に当たって考慮した項目	
2 評価に当たっての意見、指摘等	4
<b>II 項目別評価</b>	
1 法人運営の改善に関する項目	
(1) 評価結果	6
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	6
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	6
2 財務内容の改善に関する項目	
(1) 評価結果	7
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	7
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	7
3 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する項目	
(1) 評価結果	8
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	8
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	8

4	その他業務運営に関する重要項目	
(1)	評価結果	9
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	9
	ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
	イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
	ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3)	評価に当たっての意見、指摘等	9
5	教育研究等の質の向上に関する項目	
(1)	進捗状況の確認結果	10
(2)	各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況	11
	【県立大学】	11
	ア 小項目進捗状況	
	イ 業務達成に向けての取組、進捗状況	
	(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	
	(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	
	(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	
	ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等	
	【芸術大学】	13
	ア 小項目進捗状況	
	イ 業務達成に向けての取組、進捗状況	
	(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	
	(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	
	(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	
	ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等	

<参考>

### Ⅲ 参考資料

○	愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領	14
○	愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿	17

## はじめに

愛知県公立大学法人の平成27年度の業務実績について、「愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領」に基づき、中期計画に定めた項目について、下記のとおり評価を行った。

### 記

評価は、平成27年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行った。

評価項目のうち、「教育研究等の質の向上」については、教育研究の特性に配慮し、学校教育法に規定する認証評価機関の評価結果を踏まえて中期計画総合評価で評価することとしており（注）、平成27年度は、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行った。

なお、平成27年度の評価にあたっては、第二期の前半3年間の業務実績を踏まえ、6年間の計画に対する進捗状況の確認も含めて評価を行った。

注：地方独立行政法人法

第79条 評価委員会が公立大学法人について、第30条第1項の評価（中期目標に係る業務の実績に関する評価）を行うに当たっては、学校教育法第109条第2項に規定する認証評価機関の教育及び研究の状況についての評価を踏まえることとする。

### （参考） 中期計画（平成25年度～平成30年度）に定める項目

大項目	小項目	うち
		27年度評価対象項目数
第1 教育研究等の質の向上に関する目標	65	65
第2 法人運営の改善に関する目標	10	10
第3 財務内容の改善に関する目標	3	3
第4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	3	3
第5 その他業務運営に関する重要目標	7	7
計	88	88

# I 全体評価

## 1 評価結果と判断理由

### (1) 評価結果

存在感と信頼感のある「誰もが誇りに思う大学」を目指し、自立した個人として時代に向き合い、地域・世界に貢献できる人材を育成する教育の充実に重点的に取り組むという中期目標の重点的な取組の方向性に沿って

**中期計画を順調に実施していると認められる。**

### (2) 判断理由

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況・業務の運営状況など、法人の活動全体について評価した。

#### ア 項目別評価

##### 項目別評価結果一覧

大項目	評価					項目別評価の内容
	S	A	B	C	D	
法人運営の改善に関する目標		○				6頁
財務内容の改善に関する目標		○				7頁
教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標		○				8頁
その他業務運営に関する重要目標		○				9頁
教育研究等の質の向上に関する目標	(事業の外形的・客観的な進捗状況) 順調に実施していることを確認					10頁

※ 評価基準

- S 特に優れた実績を上げている。
- A 順調に実施している。
- B おおむね順調に実施している。
- C 十分に実施できていない。
- D 業務の大幅な見直し、改善が必要である。

#### イ 評価に当たって考慮した項目

中期目標の重点的な取組の方向性に沿って実施された平成27年度の取組について、法人による自己点検・自己評価を検証した結果、特筆すべき（高く評価した）項目、遅れている項目、特記事項記載等の項目を次のとおり確認し、全体評価に当たって考慮した。

<特筆すべき（高く評価した）項目>

**【教 育】**

○入試広報活動の充実 [3：県立大学]

- ・オープンキャンパスプログラムの見直し、学部単位のミニオープンキャンパスの実施
- ・オープンキャンパスへの参加者数の大幅な増加（26年度 4,089名→27年度 5,162名）

○次世代ロボット研究所の整備 [14：県立大学]

- ・教育・研究を実践的に進める環境、企業等との共同研究を推進できる環境の整備
- ・施設を活用した企業等との共同研究に向けた調整

○英語高度専門職業人コースの充実 [20：県立大学]

- ・第一線で活躍する通訳実務者の専任教員としての採用
- ・通訳翻訳研究所の設立決定
- ・スタジオスペース、同時通訳放送システムの整備

○キャリア支援の強化 [28：県立大学]

- ・合同企業説明会の開催日数、参加企業数の増加（26年度 2日間 95社→27年度 3日間 122社）
- ・学校推薦の求人増加（26年度 4件→27年度 12件）

○キャリア支援の強化 [55：芸術大学]

- ・県内芸術系 6 大学による合同企業説明会の初開催（41社、学生 411名参加）

**【研 究】**

○教員による芸術活動の推進・成果の発信 [59：芸術大学]

- ・名古屋フィルハーモニー交響楽団との協定締結による美術・音楽両分野での相互交流促進
- ・「愛芸 50 オークション」の初開催による芸術活動の発信

○科学研究費補助金及びその他の助成金の申請件数の増加 [61：芸術大学]

- ・申請、採択件数の増加（26年度 申請 25件・採択 12件→27年度 申請 49件・採択 21件）

<遅れている項目>

な し

<特記事項記載等の項目>

**【教 育】**

○グローバル人材育成に係る TOEIC800 点の目標への取組 [8、9：県立大学]

- ・ TOEIC 対策講座の拡充、直前模擬試験の新たな実施、iCoToBa（多言語学習センター）の利用促進等

○情報科学研究科における研究者養成のための教育体制の整備 [23：県立大学]

- ・ 情報科学研究科博士後期課程を2年で早期修了した女性初の内部進学による博士学位取得者の誕生

○学習環境の整備 [25：県立大学]

- ・ 図書館内へのグループ学習コーナーの整備

○就学のための支援 [30：県立大学]

- ・ 優れた卒業論文計画や学習計画を持つ学生への奨学制度「はばたけ 県大生」の新設

**【地域連携・貢献】**

○地域との連携による芸術文化の発展 [62：芸術大学]

- ・ 地元企業との共催によるセラミックデザインコンペティションの企画・運営

○展覧会・演奏会を通じた地域との交流 [63：芸術大学]

- ・ 創立50周年記念事業に向けた展覧会・演奏会等の企画

**【法人運営の改善】**

○理事長・学長のリーダーシップ、大学改革の推進[67、69]

- ・ 県立大学に将来構想室設置（将来構想担当副学長（将来構想室長）、室員2名の配置）
- ・ 県立大学における大学幹部会（8回）、将来ビジョン検討委員会（3回）の実施

**【財務内容の改善】**

○自己収入の増加に向けた取組強化 [76]

- ・ 「愛芸50 オークション」の実施（開催日数7日間、入札参加者398人、出展作品100点、落札総額1,428千円）

**2 評価に当たっての意見、指摘等**

平成27年度は意欲的な取組を多く進めるとともに目標達成に向けた様々な取組を着実に進め、中期計画を順調に実施していることは評価できる。引き続き学長のリーダーシップの下で誰もが誇りに思う大学をつくるため、法人や教職員が一体となって計画達成に向けて取組を十分に進めていただきたい。

なお、中期目標期間6年間の前半3年間を経過し、中期計画をおおむね順調に実施していると判断できる。今後、中期計画の前半3年間の成果を踏まえ、中期計画の達成が困難なものについては今後の対策を検討し、最終的に中期目標が達成されるよう期待をする。





## II 項目別評価

### 1 法人運営の改善に関する項目

#### (1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)						
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)						
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)						
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)						
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)						

  

評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	10	0	10
評価区分ごとの項目数の内訳			10		10
組織運営の改善			4		4
人材の確保・育成			4		4
効率的・合理的な業務執行			2		2

  

評価区分	
I	年度計画を実施していない。
II	年度計画を十分には実施していない。
III	年度計画を十分に実施している。
IV	年度計画を上回って実施している。

#### (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

##### ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

##### イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

##### ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

#### (3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

## 2 財務内容の改善に関する項目

### (1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)



評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	3	0	3
評価区分ごとの項目数の内訳			3		3

#### 評価区分

- I 年度計画を実施していない。
- II 年度計画を十分には実施していない。
- III 年度計画を十分に実施している。
- IV 年度計画を上回って実施している。

### (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

#### ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

#### イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

#### ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

### (3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

3 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する項目

(1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
<b>A</b>	<b>順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)</b>
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)



評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	3	0	3
評価区分ごとの項目数の内訳			3		3
評価の充実			1		1
情報公開等の推進			2		2

評価区分	
I	年度計画を実施していない。
II	年度計画を十分には実施していない。
III	年度計画を十分に実施している。
IV	年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

#### 4 その他業務運営に関する重要項目

##### (1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)					
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)					
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)					
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)					
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)					

  

評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	7	0	7
評価区分ごとの項目数の内訳			7		7
施設・設備の活用及び安全管理			4		4
社会的責任及び法令遵守			3		3

  

評価区分	
I	年度計画を実施していない。
II	年度計画を十分には実施していない。
III	年度計画を十分に実施している。
IV	年度計画を上回って実施している。

##### (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

###### ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

###### イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

###### ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

##### (3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

## 5 教育研究等の質の向上に関する項目

### (1) 進捗状況の確認結果

**【事業の外形的・客観的な進捗状況】**

各大学について、いずれも  
**順調に実施していることを確認**

\* 「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮し、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価するため、専門的な観点からの評価は実施せず、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行う。

#### <参考>

##### [各大学別小項目進捗状況]

区 分		教育	研究	地域連携 ・ 貢献	合計	(%)
年度計画を実施していない	総合	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	総合	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している	総合	39	7	12	58	89.2
	県大	26	5	8	39	90.7
	芸大	13	2	4	19	86.4
年度計画を上回って実施している	総合	5	2	0	7	10.8
	県大	4	0	0	4	9.3
	芸大	1	2	0	3	13.6
計	総合	44	9	12	65	100.0
	県大	30	5	8	43	100.0
	芸大	14	4	4	22	100.0

(2) 各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況

【 県立大学 】

ア 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携 ・ 貢献	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している	26	5	8	39	90.7
年度計画を上回って実施している	4	0	0	4	9.3
計	30	5	8	43	100.0

イ 業務達成に向けての取組、進捗状況

(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)

[14] 教育：次世代ロボット研究所の整備

次世代ロボット研究所施設を建設し、教育・研究をより実践的に進めることができる環境、企業等との共同研究をこれまで以上に推進できる環境を整備したことにより、教育研究の可能性を大きく広げた。

また、施設を活用した企業等との共同研究に向けて 27 年度中に調整を行い、28 年度開設当初からの共同研究につなげた。

[20] 教育：英語高度専門職業人コースの充実

博士前期課程において、英語高度専門職業人コースを導入し、その教育体制の充実のため、第一線の通訳実務者を専任教員として採用するとともに、通訳翻訳研究所設立を決定し、28 年度当初からの運用開始を実現した。

また、研究所設備として対談収録等が可能なスタジオスペース、学内全施設に配信可能な同時通訳放送システムなどを整備することにより実践型教育を可能とした。

[28] 教育：キャリア支援の強化

合同企業説明会の開催日数や参加企業数の増加、学校推薦の求人の増加など、学生へのキャリア支援を強化した。

(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)

なし

(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

[3] 教育：入試広報活動の充実

法人自己点検「年度計画を十分に実施している」

→ 評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」

**理 由**

オープンキャンパスのプログラム見直しや新たな取組としての学部単位のミニオープンキャンパスの実施など積極的な取組を進め、結果として参加者数を大幅に増加させたため、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

[8][9] 教育：グローバル人材育成に係る TOEIC800点の目標への取組

TOEIC800点を目指すという目標の達成率は昨年度比で1.7%減少しているものの、750点以上の高得点獲得者の割合を着実に増加させており、対策講座の拡充などの取組強化による成果が見受けられる。今後は、最終年度における目標達成に向けて全体の底上げも含み取組を進められたい。

[23] 教育：情報科学研究科における研究者養成のための教育体制の整備

複数教員による多面的指導を継続し、情報科学部、情報科学研究科博士前期課程を経て、博士後期課程を2年で早期修了した女性初の内部進学による博士学位取得者が誕生したことは素晴らしい成果である。

[29] 教育：学生の健康管理

定期健康診断の受診率向上に向けて、今後の取組を検討されたい。



## 【芸術大学】

### ア 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携 ・ 貢献	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している	13	2	4	19	86.4
年度計画を上回って実施している	1	2	0	3	13.6
計	14	4	4	22	100.0

### イ 業務達成に向けての取組、進捗状況

#### (ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)

##### [55] 教育：キャリア支援の強化

愛知県内の芸術系大学や芸術職採用企業への呼びかけ・調整を行い、愛知県内芸術系6大学による合同企業説明会の開催を初めて実現させた。

##### [59] 研究：教員による芸術活動の推進・成果の発信

協定校への教員派遣等を始めとした年度計画を順調に実施するとともに、名古屋フィルハーモニー交響楽団と協定を締結したことにより、美術・音楽両分野での相互交流を促進した。また、芸術活動の発信と50周年記念事業の財源拡充のため、教員・卒業生等の出展作品による「愛芸50オークション」を初めて開催した。

#### (イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)

なし

#### (ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

##### [61] 研究：科学研究費補助金及びその他の助成金の申請件数の増加

法人自己点検「年度計画を十分に実施している」

→ 評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」

#### 理由

創立50周年記念事業を始めとする特定の年度に限定した事業への申請も含め、意欲的に外部資金の獲得を進めて、科学研究費補助金及びその他の助成金の申請件数、採択件数ともに昨年度を大幅に上回ったため、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

### ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

##### [56] 教育：学生の健康管理

定期健康診断の受診率向上に向けて、今後の取組を検討されたい。

### Ⅲ 参考資料

#### ○ 愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領

##### 1 趣旨

愛知県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う愛知県公立大学法人（以下「法人」という。）の各事業年度の業務実績に関する評価（以下「年度評価」という。）の実施に関し必要な事項を定める。

##### 2 評価方針

年度評価は、次に掲げる方針により行う。

- (1) 大学の教育研究の特性や大学運営の自主性・自律性に配慮しつつ、大学改革の推進に向けた継続的な質的向上に資する。
- (2) 中期計画に定めた項目ごとの各年度における具体的な実施状況について調査・分析し、進捗状況等の達成度を踏まえた業務全体を評価することにより、業務運営の改善、充実に資する。
- (3) 評価の過程を通じて、法人の業務達成に向けての取組、進捗状況を明確にすることにより、県民への説明責任を果たす。
- (4) 評価に関する作業が法人の過重な負担とならないように配慮する。

##### 3 評価方法

年度評価は、各年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行う。

年度評価の実施にあたっては、法人が中期計画の項目ごとに各年度における業務実績を記入し、その進捗状況を法人自らが評価した業務実績報告書（以下「報告書」という。）を作成し、評価委員会に提出する。

評価委員会は、報告書に基づき法人からヒアリングを行い、調査・分析し評価する。

なお、戦略性が高く意欲的な計画等は、達成状況の他にプロセスや内容を評価する等、積極的な取組として適切に評価する。

##### ① 項目別評価

当該年度計画に定める各項目について、その達成状況を確認することにより、各年度における中期計画の進捗状況を確認し、以下のア～ウにより評価する。

なお、「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮するため、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価する。

したがって、年度評価においては、専門的な観点からの評価は実施せず、法人は、中期計画の項目ごとに事業の外形的・客観的な進捗状況を記述式により記載し、評価委員会は、その確認を行うこととする。

#### ア 法人による自己点検・自己評価

法人は、報告書において中期計画の小項目ごとにⅠ～Ⅳランクの4段階で評価し、計画の実施状況及び判断理由を記載する。

また、大項目ごとの特記事項に法人として特色ある取組や大学運営を円滑に進めるための工夫などアピールできる事項等を記載する。

ランク	評 価 基 準
Ⅳ	年度計画を上回って実施している。
Ⅲ	年度計画を十分に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない。
Ⅰ	年度計画を実施していない。

#### イ 評価委員会による法人の自己評価の検証

中期計画の小項目ごとに、法人の自己評価や計画設定の妥当性も含めて総合的に検証し、達成状況について上記の4段階で評価を行うとともに、法人による自己評価と評価委員の判断が異なる場合には、その理由等を示す。

また、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

#### ウ 評価委員会による評価

小項目ごとの評価結果と特記事項の記載に基づき、大項目ごとに進捗状況について、S、A、B、C、Dランクの5段階で評価する。

なお、小項目ごとの評価結果については、あらかじめ法人が項目ごとの重要性を考慮して設定したウエイトを踏まえて評価する。

ランク	評 価 基 準
S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

※大項目で「Ⅲ～Ⅳが9割未満」の場合については、Ⅱ以下となった項目の重要性・計画の実施状況等を勘案した上で、総合的に評価する。

#### ② 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況、業務の運営状況など、法人の活動全体について記述式により評価する。

#### 4 報告書の提出

報告書は、別紙様式により、毎年6月末日までに評価委員会に提出する。

#### 5 評価結果

- (1) 評価結果は、法人に通知する。
- (2) 評価委員会は、必要があると認めるときは、法人に対して業務運営の改善その他の勧告を行う。
- (3) 評価委員会は、前2項における内容を知事に報告するとともに、公表する。
- (4) 知事は、前項の報告を受けたときは、その旨を議会に報告する。

#### 6 評価結果の反映

- (1) 評価結果がB～Cランクの項目については、法人が自主的に業務運営の改善等の所要の措置を講ずる。
- (2) 評価結果がDランクの項目については、原則として業務運営の改善その他の勧告を行う。

○ 愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿

氏 名	職 名
岡田 亜弥	名古屋大学副理事 名古屋大学大学院国際開発研究科教授
九鬼 綾子	ミックインターナショナル株式会社代表取締役
佐藤 元彦 (委員長代理)	愛知大学経済学部教授 (前理事長・学長) 豊橋技術科学大学監事
二村 友佳子	公認会計士・税理士 名古屋工業大学監事
山本 進一 (委員長)	岡山大学理事・副学長 (名古屋大学名誉教授)

(五十音順、敬称略)